

## 平成 25 年度第 2 回 IODP 部会執行部会

日時:2013 年 8 月 31 日(土)14:00~17:00

場所:JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席予定者:

執行部:石渡 明(部会長・東北大学東北アジア研究センター)

西 弘嗣(部会長補佐・東北大学総合学術博物館) 鈴木庸平(東京大学)

齋藤実篤(IFREE/JMSTEC) 中村恭之(IFREE/JMSTEC) 道林克禎(静岡大学)

村山雅史(高知大学海洋コア総合研究センター)

オブザーバー:

文部科学省:木村 穰 佐伯健太郎

CDEX:東 垣

事務局:倉本真一、梅津慶太(CDEX)

欠席予定者:池原 研(産業技術総合研究所)池原 実(高知大学海洋コア総合研究センター)

木村純一(IFREE/JMSTEC) 坂口有人(山口大学) 中西正男(千葉大学)

平野直人(東北大学東北アジア研究センター) 山田泰広(京都大学)

横山祐典(東京大学大気海洋研究所)

### 議事次第

#### 1. Facility Boards 会議報告

・CIB【東】.....資料 1-1

・JRFB【石渡】.....資料 1-2

#### 2. PEP 委員ローテーション戦略検討【西, 事務局】.....資料 2

#### 3. IODP 掘削航海の動向報告【事務局】

・航海スケジュール.....資料 3-1

・乗船予定者リスト.....資料 3-2

・Co-chief nomination.....資料 3-3, 3-4

#### 4. J-DESC 将来検討委員会方針確認【西部会長補佐】.....資料 4

#### 5. JAMSTEC の動向報告【事務局】.....資料 5

#### 6. プロポーネントへの事前調査支援について【中村】.....資料 6

#### 7. 広報活動について

・地質学会ランチョン(9/15)【事務局】.....資料 7

・「ちきゅう」関連記者説明会【事務局】.....資料 8

・シンポジウム等の開催【西, 鈴木】

#### 8. その他

・その他報告事項など

・次回執行部会開催日程確認

### 配布資料

資料 1-1 #1 CIB Consensus items

資料 1-2 #2 JRFB meeting 報告

資料 2 PEP ローテーション(案)

資料 3-1 IODP 掘削航海スケジュール

資料 3-2 IODP 掘削航海乗船予定者リスト

資料 3-3 Co-chief nomination リスト

資料 3-4 Proposal cover sheets (795, 552, 793, 807)

資料 4 J-DESC 将来検討委員会

資料 5 JAMSTEC 第 3 期中期計画策定関連

資料 6 プロポーネントに対する事前調査支援案につ  
いて

資料 7 地質学会ランチョン「新 IODP の枠組みと現在  
の IODP の動向」(案)

資料 8 「ちきゅう」関連記者説明会(全 3 回)について

参考資料 1 Chikyū Riser Proposal Flow Chart

参考資料 2 Proposal Submission Guideline

## 議事録(案)

### 1. Facility Boards 会議報告

#### ・CIB【東】.....資料 1-1

東 CDEX センター長より報告がなされた。

- ・ 第 1 回会議が 7 月 21 日～23 日に JAMSTEC 横浜研究所にて行われた。
- ・ 第 1 回は Policy や Background を共有することが目的であった。次回は本来の目的を達成するため(年間計画や次期計画の検討など)の会議を行う。
- ・ CIB はライザープロポーザルについて PEP, SCP を利用することが合意された(EPSP は使わない)。
- ・ CRISP と IBM の 2 つが"Chikyu project"として認定され、更なる検討を行うため、Project Coordination Team (PCT)をそれぞれ設置することとなった。
- ・ 次回は 2 月中旬に開催予定。

#### ・JRFB【石渡】.....資料 1-2

石渡部会長より報告がなされた。

- ・ 第 2 回会議が 8 月 27 日, 28 日に NSF にて行われた。
- ・ 議長は科学者以外からも選任されることについて可とする ToR が可決された。
- ・ PEP と SCP を統合して SEP (Science Evaluation Panel) とすることが合意された。
- ・ CIB が JR のパネルを利用することが承認された。
- ・ Science Support Office の 2014 年度計画案が可決された。
- ・ JRFB は次の場合に掘削航海を「ちきゅう」に移管することに同意した。(1)JR の能力を超える場所(推進 6000m 以上の海溝など), (2)JR の運用計画上, 長期にわたっていきることができない地域, (3)「ちきゅう」の運航航路に近い地点
- ・ 2014 年度の JR 運航計画がこれまでの予定通り承認された。しかし, CPP の South China Sea の調整手続きのめどが立っていないため 2014 年 1 月末からの実現は不透明である。
- ・ 米国の IODP 関連の経済状況が厳しく, 2015 年度から JR の運航を終了する場合について 2017 年度までの年次計画と費用の見積もりが示され, NSF の Conover 海洋部部長より状況説明があり, 「完全に悲観的というわけではないが, 楽観的でもない」と述べた(2013 年からインフラの予算と研究予算の割合が逆転していることが懸念されている)。
- ・ JRFB メンバー 11 名のうち, Fillippelli (米国) と石渡氏が退任することに伴い, Roberts 氏(オーストラリア) と安間氏をメンバーとすることが承認された。

西: 米国が海洋掘削をやめることになった場合に, 日本がどのようなアクションを取るべき(JR がなくなった場合にどうプログラムを進める)かを検討する必要があるのではないか?

木村: 一番インパクトが大きいのはアメリカの研究者であるので, 日本の研究者は(「ちきゅう」があるので)それほど気にする必要はないのではないか。もし JR がやめることになった場合のプロセスやかかる予算も検討されている。それによれば, 2014 年度までは航海を実施し, その後は航海を実施しない。JR がなくなった場合に「ちきゅう」をどのように動かしていくかについては JAMSTEC の経営判断によるところが大きいだろう。

### 2. PEP 委員ローテーション戦略検討【西, 事務局】.....資料 2

西部会長補佐より説明がなされた。

- ・ PEP, SCP, EPSP は J-DESC が推薦することになった。
- ・ 1 年ごとに 2 名が交代することをローテーションスキームとしたい。
- ・ 6 名のうち, 4 名は慣れた人, 2 名は新しい人を送るといのがよいのではないか。
- ・ プロポーザルを提出している人を経験として会議に出てもらうことが必要。
- ・ PEP, SCP については J-DESC が推薦した人がそのまま委員になる。EPSP は複数推薦した中から JRFB が 1 名を選出することになっている。

**合意事項(130831-01):**西部会長補佐が提案したローテーションスキームとメンバーローテーション案(一部前執行部から引き継ぎ)を承認する。

### 3. IODP 掘削航海の動向報告【事務局】

事務局より下記の通り説明がなされた。

- ・航海スケジュール.....資料 3-1
  - ・ JR は現在 Exp. 346 で日本海を掘削中。その後 Non-IODP を経て来年 1 月から South China Sea CPP を実施、引き続いて IBM を 3 航海実施する予定となっている。さらにその後、インド洋の航海が 4 航海予定されている。
  - ・ インド洋の航海の Co-chief 候補者を推薦してほしいと各 PMO に要請があり、J-DESC でも複数名を推薦したいと事務局では考えている。
  - ・ MSP については、9 月上旬に Ep. 347 のバルト海掘削が開始され、プレーメンでの Onshore Science Party は来年 1 月に予定されている。
  - ・ バルト海の次は先に行われた ECORD Facility Board では Chicxulub Impact Crater のプライオリティが高いとされている。
  - ・ 「ちきゅう」は 9 月から南海掘削のライザー掘削を行い、3,600m まで掘進する予定。研究者は 11/26 に乗船予定。
- ・乗船予定者リスト.....資料 3-2
  - ・ IBM では現在微化石を中心に追加募集を行っているが見つからずタイムリミットも近づいているため、乗船枠を手放すことになる可能性がある。
- ・Co-chief nomination .....資料 3-3, 3-4
  - ・ 新しい IODP では日本の Co-chief 枠は基本的にはなく、各 PMO からの推薦に基づき、それぞれの航海で最も適任と考えられる研究者が IO によって選出される。
  - ・ JR 号のインド洋掘削 4 航海の Co-chief を推薦してほしいと USIO から要請があった。
  - ・ 事務局では各航海 2~3 名を推薦したいと考えている。

### 4. J-DESC 将来検討委員会方針確認【西部会長補佐】.....資料 4

西部会長より説明がなされた。

- ・ J-DESC の中・長期的な組織の在り方及び国内で果たすべき役割、さらにそのための体制を検討することを目的とする。最終的には規約等の改訂を目指す。
- ・ メンバーは、次世代の掘削科学をリードする研究者とし、ちきゅう、JR/MSP、陸上掘削のカテゴリに分けて選出する。  
メンバー構成案:道林氏、山田氏、村山氏、沖野氏、鈴木氏、黒田氏、斎藤氏、横山氏、(以下陸上掘削関連) 廣野氏、岡本氏、藤原氏、木村氏、オブザーバーとして両部会長を加える。委員長は村山氏とする。
- ・ 米国の方針は 11 月にわかるが、第 1 回の会議は地質学会後の 9 月下旬か 10 月初旬に開催し、まずは状況把握と情報共有が必要。

**合意事項(130831-02):J-DESC 将来検討委員会の目的、メンバー構成案、会議開催のタイミングについて原案を承認する。**

### 5. JAMSTEC の動向報告【事務局】.....資料 5

事務局より標記の件について報告がなされた。

- ・ JAMSTEC は来年 3 月いっぱい現在の中期計画の 5 か年が終了するため、来年度からの 5 年間の新しい中期計画の策定が始まった。

### 6. プロポーネントへの事前調査支援について【中村】.....資料 6

資料 6 に基づき、中村委員より説明がなされた。

- ・ これまで実施してきた事前調査関連支援について問題点を見直し、以下の支援を行っていきたい。
- ・ 日本初のプロポーザルについて、SCP の評価結果を補足してプロポーネントに連絡する。→すでに今年度から実施中。
- ・ IFREE との連携に関して、相談の流れを変えることが必要。

- ・ウェブページを大幅改定を行うべきである。
- ・プロポーザルの作成のためにどんな要素が必要かを解説するのがよい。

**合意事項(130831-03):** 執行部の現 PEP 委員をタスクチームとして、年内にプロポーザル作成のためのコツなどの内容を作成し、J-DESC のウェブページに掲載する。

## 7. 広報活動について

・地質学会ランチョン(9/15)【事務局】.....資料 7  
事務局より標記の件について説明がなされた。

・「ちきゅう」関連記者説明会【事務局】.....資料 8

## ・シンポジウム等の開催【西, 鈴木】

西氏より高知でのアウトリーチについて説明がなされた。

- ・3月21～23日のいずれかに高知にて J-DESC 主催として市民講演会を開催したい。

鈴木氏より下北掘削に関するシンポジウムについて説明がなされた。

- ・1月23日に東大理学部小柴ホールにおいてシンポジウム「海底下の炭化水素資源・炭素循環と地球生命工学」を開催する。
- ・J-DESC には共催として講師を派遣してほしい。

**合意事項(130831-04):** J-DESC として高知でのアウトリーチイベントを主催する。また、下北掘削に関するシンポジウムに講演者を派遣する。

## 8. その他

### ・その他報告事項など

- ・東京大学理学部・大学院理学研究科から会費の減額について申請があったが、多田氏が乗船中のためその後の動きは止まっている状態。
- ・Scientific Drilling は ICDP-GFZ が事務局を担うことになった。Co-editor を日米欧から1名ずつ選出することになり、J-DESC としては森下氏を推薦することとなった。近く事務局より ICDP-GFZ の Uli 氏に連絡する。
- ・高知コアセンターは補正予算でコア保管庫を増設することになった。
- ・メールで問い合わせのあった新 IODP の日本語名称は国際深海科学掘削計画とすることで文科省内で調整している。
- ・J-DESC が実施している講師派遣プログラム「J-DESC レクチャー」を初めて実施し、斎藤実篤氏が講師として北大において講演会を行った。この様子は Scientific American のゲストブログで紹介された。
- ・10/12, 13 に東北大学片平キャンパスのオープンキャンパス「片平まつり」において、IODP 関連の展示と12日には講演会を IODP キャンペーンの一環として開催する。講演会では斎藤実篤氏が講演を行う予定。
- ・JpGU のセッション提案が近づいており、コンビーナを選出する必要がある。執行部での担当は斎藤実篤氏。

**合意事項(130831-05):** 来年も JpGU において地球掘削科学セッションを設ける。セッション提案の調整は斎藤実篤氏に一任する。

### ・次回執行部会開催日程確認

11 月末ごろをめどにメールにて調整する。